

[図画工作・美術]

主体的に表現活動に取り組む生徒を育成する指導方法の研究

— 個々の実態に応じた造形的視点に基づく題材の実践を通して —

南雲 学*

1 はじめに

学習指導要領の「知的障害である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部美術科」¹⁾では、従前の「造形活動によって、表現及び鑑賞の能力を培い、豊かな情操を養う。」から「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。」へと目標が改められた。この改訂により「造形的な見方・考え方」の指導や「生活や社会の中での美術や美術文化」とのつながりが、特別支援学校での指導においても求められるようになった。

本校中学部の生徒達は、全体としては制作活動に意欲的だが、自信をもって自分なりの表現を追求する生徒がいる一方で、見通しがもてずに主体的に表し方を選び表現することに課題がある生徒や、発想が豊かで技能もある程度身に付いているにもかかわらず、自信がもてないことで発揮できていない生徒もいる。また、図版や写真、キャラクターなどを楽しんで真似て描く生徒や、モダンテクニック等の技法の体験に留まる生徒もおり、造形的な見方・考え方に基づき主体的に表現活動を行う指導を展開できていない。

そこで、生徒一人一人の実態に応じた造形的な見方・考え方にに基づき、主体的に表現活動ができるようになるための効果的な指導方法を明らかにすることを目的として本研究を進めてきた。本題材で用いた技法は、近年趣味で広く用いられているスクラッチに近いドライポイント技法である。この技法の習得は学校教育終了後の生涯学習や余暇活動へ生かしやすいと考え取り入れた。

2 研究の目的

本研究では、題材名「手で表現しよう」を取り上げ、次のような実態の生徒に対する指導方法の効果を検証することを目的とした。

- (1) 自分の表現に自信が持てなかつたり完成までの見通しが持てず、主体的に表し方を選び表現することに課題がある
- (2) 表現技法は習得しているが図版や写真や、キャラクターを真似て描いたり、一つの技法による表現に留まっている

3 研究の方法

- (1) 題材について：中学部2・3年合同授業（16名・令和4年度実施）

① 題材名「手で表現しよう」

本題材は、黒版（[版Ⅰ]）と色版（[版Ⅱ]）の2つの版の重ね刷りで、「自分の手」からイメージを拡げて表現する題材である。[版Ⅰ]は、ドライポイント（半透明樹脂板）を用いて、ニードルで線を彫って「自分の手」を表す。[版Ⅱ]は、「自分の手」の背景になるイメージを自由に色版で表現する。板紙凹凸版を用いて、ニードルで彫っても厚紙等を貼り付けてもよいこととした。ニードルを使ったスクラッチは、広く成人の趣味として行われている。本校中学部では、ドライポイント版画またはスクラッチボードにモチーフを変えながら毎年取り組んできた。

② 題材の目標

- ・手のポーズや配置、線の強弱、明暗表現などを工夫して表情豊かにドライポイントで表現する
- ・好きな物を描いたり、模様を貼り付けたりして作った色版を手の背景に加えることで豊かな版画表現を追求する

*十日町市立ふれあいの丘支援学校

③ 指導計画（全11時間） ※（ ）内の数字は時数

| | |
|-----------|--|
| 次 | |
| 1次 (2) | <p>○手の描画練習：手を紙の上に置き、鉛筆で手の形をなぞる。周りをハッチング等で塗る。</p> <p>○ドライポイント下描き：やり方は、習作後、実態に合わせて下絵にするものを選択する。</p> <p>① 表したい手のポーズを考えて、タブレットで何枚か撮影する。何かを持ってよい。撮影した何枚かの写真の中から、気に入ったものを選びそれを見て描く。</p> <p>※タブレットを見て描くのが難しい生徒は、撮影のみ体験し、②に入る。</p> <p>② 手に絵具を塗り、手の配置や指の開き方を工夫してスタンプ押しする。</p> <p>※両方右手または左手でもよい。輪郭をなぞった後手のしわを描くよう促す。</p> <p>③ 表現方法を①と②のいずれかまたは①と②の組み合わせから選ぶ。テーマをプリントに記入する。選んだ方の習作をテーマにそって必要なら修正し版画の下絵とする。</p> |
| 2次 (1) | <p>○ハッチングの練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小型のスクラッチボード（模様の下絵が灰色で印刷された市販品）で、ニードルの使い方の練習。 ・鉛筆でハッチングとクロスハッチングでの陰影表現の練習。 |
| 3次 (3) | <p>○ニードルを使ってドライポイント〔版Ⅰ・透明樹脂板〕を彫る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輪郭線を丁寧に彫って「試し刷り①」を刷る。 ・必要に応じて輪郭線を彫り足した後、影を彫る。 ・「試し刷り②」を刷る。 |
| 4次 (3) | <p>○「試し刷り②」の左右反転コピーに背景の下描きをする。</p> <p>下描きを〔版Ⅱ・板紙凹凸版〕にカーボン紙で写す。</p> <p>※型紙や紐などを貼り付ける場合にはこの行程は行わない。</p> <p>○2つの表現方法から選択する。併用してもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〔版Ⅱ〕にニードルを使って彫る。 ・クラフトパンチでボール紙や画用紙を型抜きしたものや紐などをボンドで〔版Ⅱ〕に貼る。貼付で凸版になった版にクリアラッカーを噴きかけてインクの拭き取りを調節しやすくする。 |
| 5次 (1) | <p>○〔版Ⅱ〕を色インクで刷る。（赤・青・黄色／混色や塗り分けも可とする。）</p> <p>○〔版Ⅰ〕を黒インクで重ね刷りする。</p> |
| 6次 (1) | <p>○相互鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成作と〔版Ⅰ〕だけの刷りを並べて鑑賞する。（表現の広がり、深まり） |

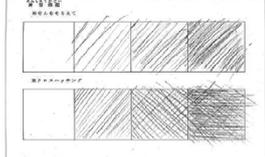
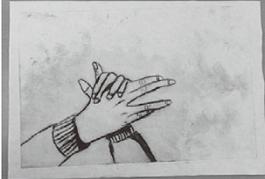
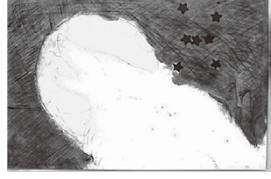
(2) 抽出生徒の実態及び指導方法

3名の抽出生徒の実態を踏まえて、本題材を通じて次のような指導方法を講じて、その有効性を表現方法の変容から検証する。

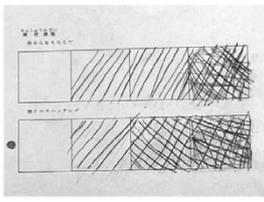
| | 実 態 | 指導方法 |
|-------|---|--|
| 抽出生徒A | <p>・描画技能は高いが、好きな絵やイラストを検索して丁寧に真似て描くことが多く、実物を見て描くことにやや苦手意識がある。輪郭を綺麗な線で描くと完成で、構図や技法的な工夫はあまり見られない。</p> | <p>・手のなぞり書きによる描画練習の後、<u>ポーズを工夫してタブレットで自分の手を撮影する</u>。タブレットの写真を見て描くことで複雑な手の形でも描きやすいようにする。</p> <p>・ハッチングによる陰影付けの練習をしたり、〔版Ⅱ〕に凹凸版を使用したりすることで、<u>技法の工夫</u>を促す。</p> |
| 抽出生徒B | <p>・描画技能は中程度だが、力強い線で描くことができる。複数のものを配置して構図を作ったり、強弱を付けて表現することは苦手である。</p> | <p>・手に絵具を付けて配置を考えてスタンプ押しした形を使って描く表現を選択肢に入れる。</p> <p>・〔版Ⅰ〕を彫る前にハッチングやスクラッチの練習課題をすることで<u>線の強弱・粗密を意識する</u>。</p> <p>・〔版Ⅰ（手を表した版）〕のコピーに〔版Ⅱ（背景）〕の下絵を描くことで、<u>ネガ・スペースに合わせた背景を考える</u>。</p> |

| | | |
|-------|---|---|
| 抽出生徒C | <p>・正確な描画は得意でないが、自分なりの描き方で楽しんで描ける。課題によっては見通しがもてないことで、表したいことがはっきりせず、次の制作に進むことができないことがある。</p> | <p>・手に絵具を付けて配置を考えてスタンプ押しする。押した形をなぞって下絵を作る表現を選択肢に入れる。彫る場所をペンで塗ることでニードルで彫る見通しがもてるようにする。</p> <p>・[版Ⅱ(背景)]では、テーマに合わせてクラフトパンチの形を選んで型紙を貼る凸版も選べるようにする。</p> |
|-------|---|---|

4 結果

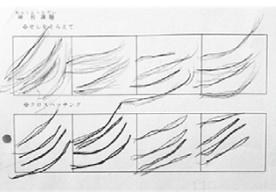
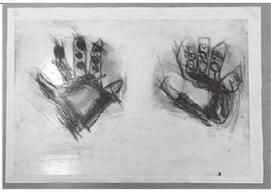
| | | |
|--------------|---|--|
| (1) 抽出生徒Aの変容 | | |
| 1 | <p>○手の描画練習課題</p> <p>利き手と反対の手を紙の上に置いて利き手で鉛筆を持ってなぞる練習は、正確になぞれている。形のネガ・スペースを意識するために、ネガ・スペースをクロスハッチングで埋めた²⁾(図1)。</p> <p>絵具を塗ってのスタンプ押しでは、自分で手や指の配置に工夫して取り組む様子が見られた(図2)。</p> |  <p>図1</p>  <p>図2</p> |
| 次 | <p>○ドライポイント下描き</p> <p>タブレットで自分の手を写真を撮って描くやりかたを選択した。両手を組み合わせたポーズを作り、セルフタイマーで撮影した。もともと描画技能は高い生徒であるが、ネガ・スペースを意識することで、バランスよく正確に輪郭を描くことができている(図3)。</p> |  <p>図3</p> |
| 2 | <p>○ハッチングの練習課題</p> <p>図4のように「ハッチング、クロスハッチングを使った明暗4段階」は、やり方を理解し正確な明暗の段階付けができた。図5は、市販品「自律神経を整えるスクラッチアート」³⁾に取り組んだものである。ニードルを丁寧に使い正確に模様を彫った。</p> |  <p>図4</p>  <p>図5</p> |
| 3 | <p>○ドライポイント[版Ⅰ・半透明樹脂板]を彫る</p> <p>下描きを、半透明樹脂板に写す(下絵の上に裏返してすりガラス状の面が上になるように置き直接鉛筆でなぞる)。それをさらにペンでなぞり、ペンを消すようにニードルで重ねて引っ搔くことで、輪郭や濃い影をはっきりと彫った(図6)。ハッチングの練習を生かして薄めの影を加えて刷り直した(図7)。</p> |  <p>図6</p>  <p>図7</p> |
| 4 | <p>○試し刷りの左右反転コピーに背景の下描きをする</p> <p>狼の影絵を作る手のポーズの発展として、狼と大きな月、ススキや星座を描き加えた(図8)。</p> <p>○下絵を[版Ⅱ・板紙凹凸版]にカーボン紙で写し彫る</p> <p>板紙版にカーボン紙で下絵を写してニードルで彫った。星座は彫っては目立たないと考え、型紙パンチで切り抜いた星形をボンドで貼り付け凸版にした(図9)。</p> |  <p>図8</p>  <p>図9</p> |

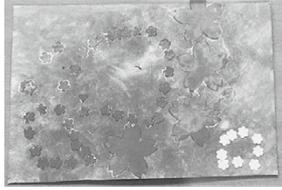
| | | | |
|--------|---|---|--|
| 5 次 | <p>○ [版Ⅱ] を色インクで刷り, [版Ⅰ] を重ね刷りする 1 回目の刷りは薄めに刷った (図10)。生徒Aは夜の感じが足りないと考えて, 2 枚目はインクの拭き取りを減らして色版が濃く出るようにした。こちらの方がイメージに合うと生徒Aは考え, [版画Ⅰ] を重ね刷りした (図11)。</p> <p>それぞれの制作過程で工夫や修正を重ね, 完成度の高い表現を追求できたと考える。</p> |  <p>図10</p> |  <p>図11</p> |
|--------|---|---|--|

| | | | |
|--------------|--|---|--|
| (2) 抽出生徒Bの変容 | | | |
| 1 次 | <p>○手の描画練習課題 手を紙の上に置いてなぞる課題では, 慎重になぞることで正確に手の形を描くことができた (図12)。次に配置を工夫して両手を描こうとしたが, バランスがとりにくくて苦勞していた (図13)。</p> <p>○ドライポイント下描き 手の配置を考えて絵具を塗った手でスタンプ押しをすることで下絵を作るやり方を選択した。スタンプ押しした形に合わせて輪郭を描いた左から2番目の手は, かなり正確に形を描けている。自信をつけて手を4つ描き, 「まで」と題名を付けた (図14)。</p> |  <p>図12</p> |  <p>図13</p> |
| 2 次 | <p>○ハッチングの練習課題 「ハッチング, クロスハッチングの課題」は, やり方を理解し手順に沿って順番に線を引くことで, ほぼ正確な明暗の段階付けができた (図15)。</p> <p>市販品「自律神経を整えるスクラッチアート」³⁾を使ったニードル練習では, 下絵の線以上に彫りすぎたが, 楽しんで掘り続けたことを評価した (図16)。</p> |  <p>図15</p> |  <p>図16</p> |
| 3 次 | <p>○ドライポイント [版Ⅰ・半透明樹脂板] を彫る 下描きを版に鉛筆で写してペンでなぞり, ペンを消すようにニードルで重ねて引っ掻くことで, 輪郭や指のしわなどを彫った。4つの手で少しずつ彫る線の向きや線の量を変えることを工夫していた。「全てを同じように彫りすぎない方が見栄えがする」ことは前課題で学習しており, それを生かしている (図17)。</p> |  <p>図17</p> | |
| 4 次 | <p>○試し刷りの左右反転コピーに背景の下描き 「まで」の4つ手の真ん中に挟まれるように犬を描いた。犬は図鑑から参考にする動物を選んで描いた。絵の上部には隙間に合わせて雲を配置した。ユニークでまとまりのある構図になった (図18)。</p> |  <p>図18</p> | |

| | | |
|----|--|---|
| | <p>○下絵を板紙凹凸版にカーボン紙で写して彫る 板紙版に下絵を写しニードルで彫る。生徒Bは〔版Ⅱ〕も全て凹版で制作した。青空は強めの線でハッチングをすることで濃い色で表現している（図19）。</p> |  <p>図19</p> |
| 5次 | <p>○〔版Ⅱ〕を色インクで刷り〔版Ⅰ〕を重ね刷りする 色分けの効果が活かされた完成度の高い作品である。創作絵本のような物語性のある作品になった（図20）。</p> |  <p>図20</p> |

(3) 抽出生徒Cの変容

| | | |
|----|--|--|
| 1次 | <p>○手の描画練習課題 手を紙の上に置いてなぞる課題には丁寧に取り組んだ（図21）。支援を受けながら両手をなぞり描きしてみたが、難しいと感じたようだ（図22）。</p> <p>○ドライポイント下描き 手の配置を考えて、絵具を塗った手でスタンプ押しをすることで下絵を作るやり方を選択した。スタンプ押しした形に合わせて輪郭を描いた。前課題より指を関節ごとに区切って線を描いたり、手の平のしわを描いたり、リアルさを追求しようとする姿勢が見られた。（図23）</p> |  <p>図21</p>  <p>図22</p>  <p>図23</p> |
| 2次 | <p>○ハッチングの練習課題 ハッチングを使った練習課題では、丁寧に線をそろえて描くことができた（図24）。市販品の「スクラッチアート」を使ったニードルの練習では、模様線の線をよく見て形に合わせて、いつもより短い線で彫ることができた。（図25）</p> |  <p>図24</p>  <p>図25</p> |
| 3次 | <p>○ドライポイント〔版Ⅰ・半透明樹脂板〕を彫る スタンプ押しで作った下絵（図23）に樹脂版を重ね、磨りガラス状の面に輪郭や指の関節を鉛筆でなぞった後、樹脂板を裏返して下絵のスタンプで色の付いた場所をペンで塗った（図26）。ペンの黒を消すように彫ることで、全体的に黒く手の形に仕上げた（図27）。</p> |  <p>図26 (版)</p>  <p>図27 (刷り)</p> |
| 4次 | <p>○試し刷りの左右反転コピーに背景の下描きをする 〔版Ⅰ〕の線と区別するために、色鉛筆で描いたところ、楽しんでいろんな色を塗っていたが、版画にするには難しい下絵になってしまった（図28）。</p> |  <p>図28</p> |

| | | |
|--------|--|--|
| | <p>○ [版Ⅱ (色版)] を型紙を貼って作る 最初に手の下絵を描いたときから、題名に「さくらの雨」と書いていたことから、桜のクラフトパンチを使った型抜きで版を作ることを提案した。型抜きした大小の桜を下描きなしで自由に配置し、ボンドで貼り付けた (図29)。</p> |  <p>図29</p> |
| 5 次 | <p>○ [版Ⅱ] を色インクで刷り [版Ⅰ] を重ね刷りする 色インクは赤・紺・黄色の三色を用意していた。「オレンジにしたい」と言ったので、赤と黄色のインクを混ぜて刷った。全て凸版であるが、他の生徒と同様に油性インクを使いプレス機で刷った (図30)。 色版で全体的に桜が表現された上に、黒版で手を重ねた。桜吹雪に両手をかざしているように見え、制作の最初につけた題名「さくらの雨」にふさわしい、豊かな版画表現ができた (図31)。</p> |  <p>図30</p>  <p>図31</p> |

5 考察

(1) 指導方法の有効性と学びの深まり

抽出生徒Aの描いた両手の形は、描画の技能が高い生徒でも難しい課題である。習作を通して、ネガ・スペースの形を意識することで、これまで以上にバランス良く形を捉えて描くことができたと考える。また、影の表現も必要な個所はしっかりと彫り、それ以外の個所は彫りすぎではない。ハッチング練習やスクラッチアートのなぞり課題を間に行うことで、影の描写も造形的なレベルアップができたと考える。背景表現でもニードルでの彫りと型紙の貼付を併用するなど工夫していた。

抽出生徒Bは、手の配置を工夫して手型を押すことを通して造形的な面白さに気づき、構図を工夫して手を4つも彫った。さらに色版では、発想を広げて沢山の雲がある青空や手にかこまれた犬を表現した。青空は色が濃く出るように、練習したクロスハッチングで彫っていた。

抽出生徒Cは、スタンプを押した手の形に合わせてペンで印を付けて彫ることで見通しをもって取り組めた。また、色版では桜の型抜きを使うことで、始めに考えた「さくらの雨」のイメージで完成まで見通しをもってスムーズ制作を進めることができた。

取り組みやすい「手」の表現について、自分の表し方を選び表現することで多くの生徒が見通しをもって取り組むことができた。タブレットの写真をもとに描くことは、直接見て描けば難しいポーズも静止画像とすることで描くことを可能にした。また、手型押しでは分かりやすく構図の工夫ができた。2版に分けた制作過程を通して、生徒のこれまでの作品と比べ背景により多くの工夫が見られた。[版Ⅱ・板紙凹凸版]は、発想に応じて別の技法を取り入れて多くの生徒が楽しんで制作していた。造形的な視点に基づき主体的な表現活動を行う生徒の姿が見られた。

(2) 課題

今回の制作過程は、途中で習作を挟むこともあり、通常より時数を増やし題材設計した。生徒の中には、制作途中の線の造形的なよさが版画にする過程で弱まってしまうこともあった。生徒個々の実態にあった指導過程の工夫を今後も続けていきたい。

〈参考文献等〉

- 1) 文部科学省 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編 (小学部・中学部) 平成30年3月
- 2) ベティ・エドワーズ著 野中邦子訳 『利き目を使って描け』 河出書房新社 2021年 PP.70~73
- 3) 撫子凜 『自律神経を整えるスクラッチアート 色彩を楽しむ花万華鏡』 エムディエムコーポレーション 2022年 ※課題に一部を使用